



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2024 年 1 月 18 日 (2024 年度のチャレンジプラン)
プラン名	いのちの大切さの語り部になろう！！
実践団体名	石巻市立桃生中学校
代表者名	校長 和泉 千佳子
電話番号	0225-76-4122
メールアドレス	jhsmonocl@city.ishinomaki.lg.jp
実践団体の説明	宮城県石巻市の西部に位置し、北上川、旧北上川に挟まれた土地にある自然豊かな環境にある学校である。町の伝統芸能「はねこ踊り」が有名で、町全体で継承活動に力を入れている。内陸部であることから、東日本大震災で津波の被害はなかったものの、全・半壊家屋が多数あるなど大きな被害があった。立地から、川の氾濫が起こる危険性があり、水害に対する防災を進めている。
所属メンバー	教頭・只埜昌美（渉外）、主幹教諭・大村和英（全体計画）、教諭・志賀優香（総合的な学習の時間担当）
活動の本拠地	石巻市立桃生中学校 (宮城県石巻市桃生町寺崎字植立20)
活動開始時期・結成時期	令和4年4月
過去の活動履歴・受賞歴	特になし

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係
プランの運営側の人数（実数）	約 20人
プランの活動地域	宮城県石巻市桃生町内
プランの防災教育の対象者	6. 中学生
防災教育の対象者の人数（実数）	約 156人
プランが対象とする災害	1.地震 2.津波 3.風水害 7.犯罪 8.火災 9.災害全般 10.その他（具体的に：原子力災害）



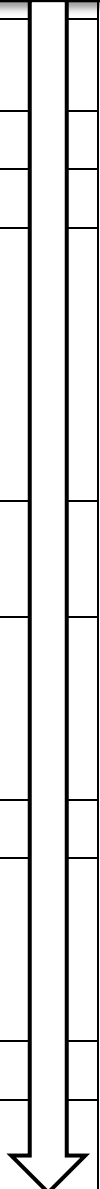
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる 8. 防災に役立つ資料・材料づくり
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	4. 総合的な学習（探求）の時間 5. 教科 7. 道徳
プランでの連携先	4. 町会・自治会 5. 自主防災組織 8. 国・地方公共団体 9. 公共施設 10. 企業・産業関係
実践にかかった金額	30万円未満



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	職員会議 プランの確認	河北警察署と調整	・校内避難経路確認
5月	企画委員会①		・引き渡し訓練 ・不審者対応訓練 (河北警察署と連携)
6月	企画委員会②		・避難訓練(地震) ・ど根性ひまわりの植栽活動
7月	企画委員会③	震災遺構・バス予約	
8月	企画委員会④	桃生地区地域防災連絡会	
9月	企画委員会⑤	総合防災訓練準備(支所との打ち合わせ)	・河北新報社出前授業 ・震災遺構気仙沼向洋高校調べ学習(2年生) ・震災遺構大川小学校調べ学習(3年生) ・避難訓練(洪水)
10月	企画委員会⑥	総合防災訓練準備(地区防災担当者との調整)	・避難訓練(火災) ・ど根性ひまわり種採取
11月	企画委員会⑦	震災遺構・バス予約	・石巻市総合防災訓練語り部活動① ・原子力避難訓練(市モデル校指定事業)
12月	企画委員会⑧	竜山中学校交流の調整	
1月	企画委員会⑨ 年度末反省会	竜山中学校, 西信達中学校交流調整	・震災遺構門脇小学校調べ学習(1年) ・竜山中学校交流授業(1年道徳)
2月	企画委員会⑩		
3月	企画委員会⑪		・語り部活動②交流授業 ・みやぎ鎮魂の日集会

生徒主体の
シェイクア
ウト訓練





実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>石巻市内でも内部の地域で、東日本大震災では津波の被害は受けていないものの、建物の全・半壊、ライフラインの寸断など地震の揺れによる大きな被害があった。震災後13年の月日が経ち、桃生中学校の生徒は震災を体験していない年代となっている。石巻市民として震災を語れる人材を育てるとともに、生徒の防災意識の高まりが、将来のこの地域の防災意識の高まりに直結するものと考え、震災を知る学習を軸に防災教育を進めたいと考えている。</p> <p>また、一過性の教育活動ではなく、長年本校で取り組んでいけるよう、防災教育を教育課程に効果的に組み込み、無理のないカリキュラムで実施していくことを目標としている。道徳教育を主軸として総合的な学習の時間、社会科の授業と連動して効果的な指導方法について模索していきたい。</p>
----------	--

プランの「チャレンジ」の結果	<p>1 チャレンジのポイント</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 震災を直接体験していない生徒が震災について学び、自分自身が語り部となる。(2) 地域の方や小学生など外部に向けて語り部活動を行うことで地域の防災意識を高める。(3) 年間を通した避難訓練や道徳教育により自分自身や家族、他者の命を守ろうとする心情を育てる。 <p>2 成果について</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 生徒は、震災遺構見学をとおして、語り部として震災の記憶を伝えることの意義を感じることができた。震災の恐ろしさや被災した人々の大きな悲しみについても触れることができた。(2) 語り部となるための事前学習（河北新報社の出前授業）をとおして、文章や言葉による表現力を高めることができた。(3) 市の防災訓練を活用し、地域の方に語り部の活動を行ったおかげで、地域の方、特に小学生が東日本大震災について学ぶ良い機会となった。コロナ禍で地域の方と交流がなくなっていた状況だったので、地域の方からは「子どもたちと話ができてとても楽しか
----------------	--



	<p>った。中学生の発表は大変立派で内容も素晴らしかった」等、感想をいただいた。学校と地域が連携した初めての取組であったため、今後の地域防災連携の足がかりとなる取組になった。また、地区の防災担当者の方と連絡調整を行ったり、支所と連携して訓練をコーディネートしたりしたことで、地域防災の活性化が図れたと感じている。</p> <p>(4) 年間を通して様々な防災訓練を実施したことで生徒の防災への意識が高まった。特に生徒主体の抜き打ちのシェイクアウト訓練では放送による呼びかけや避難の様子をチェックを生徒自身が行い、真剣に訓練に取り組む姿がうかがえた。また、昨年度実施していなかった原子力避難訓練を行うことで、多様な災害について知ることができ、災害に対する対応力や知識が身に付いた。</p>
--	---

<p>実践内容・方法・成果</p>	<p>1 全体計画立案から実施の流れ</p> <p>(1) ねらいと計画は管理職を含めた企画委員会で大筋の部分は決定した。</p> <p>(2) 実動は1学期から外部機関と渉外（教頭）が連絡調整を行った。具体的な学習内容については総合的な学習の時間で取り扱うことが多かったため、総合学習担当が詳細（学習過程やワークシート）案を作成した。</p> <p>2 会計事務について</p> <p>(1) 会計事務は学校の事務職員が担当。請求書は事務が預かり、支払いと会計簿作成業務を行った。</p> <p>3 震災遺構見学について</p> <p>(1) 渉外が1カ月前までに施設とバスの予約を行った。施設ごとに何通りかの見学プランがあるため、時間と内容を打ち合わせた。語り部も斡旋してくれるため、電話で相談すれば、見学者の意向にそったプランを立案してくれる形となっている。1～3年生まですべて2時間の見学と語り部の依頼を行った。</p> <p>(2) 生徒の準備はタブレットとメモ用紙</p> <p>(3) 調べ学習のまとめは、2, 3年生は新聞形式のため、「c a n v a」というアプリケーションで作成。1年生はグーグルスライドを活用した。</p> <p>4 語り部活動について</p>
-------------------	--



	<ul style="list-style-type: none">(1) 地域の活動に中学生の活動を盛り込む形となるため、桃生町総合支所の地域振興課に相談をし、了承をいただいた。また、地区の防災担当に協力いただくため、行政委員（地区の取りまとめ役の方）に依頼文書を渡してもらい、協力いただけるかをお諮りした。協力していただける地区に生徒を割り振り、防災訓練の中で時間を割いていただき語り部活動を行った。(2) 教員は各地区に赴き、写真記録と出席確認を行った。 <p>5 竜山中学校、西信達中学校との交流授業について</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 竜山中学校とは震災のつながりで昨年度から授業交流をしており、竜山中学校からは阪神淡路大震災関連の「語りかける目」という題材で竜山中主導での授業に桃生中が参加する形で授業を行った。今年度も道德教育と震災学習の両面のねらいで交流授業を実施した。(2) 西信達中学校は防災教育チャレンジプランの中間報告会で同じ分科会であったことがきっかけで、交流授業を行うこととなった。竜山中学校との交流授業の際に参加していただく予定となっている。(3) 教頭がメールで連絡をとりあうことを基本として、生徒会担当で授業の打合せを行った。授業の打合せはオンラインで顔を見合わせた形で1回か2回程度実施。年度のはじめは、生徒会の生徒同士で自己紹介を行う顔合わせをオンラインで実施した。両校の校長も挨拶を行った。
--	--



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。
該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

<p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした</p>	<p>教員全体の校務分掌の分量を考え、立案は管理職、実働のチーフは防災担当、計画の詳細の立案は総合的な学習の時間担当者とした。全体の業務量が増加しないよう、主にその三者で運営した。</p>
<p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした</p>	<p>石巻市には「地域防災連絡会」という学校と地域の代表者が学校防災について協議する場が設定されているため、その機会を活用して、学校に取組についてご理解いただいた。また、防災主任が地域区の防災担当の方と直接連絡取り合い語り部活動をコーディネートしたため、時間と労力はかなりのものがあつた。</p>
<p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った</p>	<p>週1回行われる主任者会（管理職、教務主任、学年主任）で方針を確認しながら計画を進めた。</p>
<p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した</p>	<p>地域にある行事を活用することをはじめから想定していた。初めての取組のため、はじめから町内に限定して計画を進めた。</p>
<p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた</p>	<p>前年度から、総合的な学習の時間と道徳、教科の年間指導計画に組み込んでいた。</p>
<p>6. 【準備段階】<u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した</p>	<p>学校、支所、公民館等、地域の施設を活用した。</p>
<p>7. 【準備段階】<u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した</p>	
<p>8. 【準備段階】<u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた</p>	



<p>9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：webサイトを引用した</p>	<p>今年度からN I E推進事業（新聞を活用した教育活動）の対象校となったため、成果物は新聞形式にまとめることとした。</p>
<p>10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた</p>	
<p>11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した</p>	<p>総合支所の地域振興課と連絡を密にし、ご協力をいただいた。地区の防災担当者の割り当てや、会議の連絡調整にご尽力いただいた。</p>
<p>12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した</p>	<p>総合的な学習の時間だけでは時数確保が難しかったため、社会と道德の関連する部分に充当した。</p>
<p>13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた</p>	
<p>14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	<p>中間報告会で西信達中学校様からご連絡をいただき活動範囲が広がった。</p>
<p>15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた</p>	
<p>16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った</p>	
<p>17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：webサイトで発信した</p>	<p>新聞形式にまとめた成果物を印刷業者に依頼して冊子を作成した。見学した震災遺構に置いていただくことを了承いただいた。</p>



18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した	校内で次年度の計画立案のための教育活動の反省会を行った。
今後の活動予定・今後の展開	震災遺構の見学を継続して行っていきたいと考えているが、バスの予算問題を解決する策を検討中である。毎年、予算が確保できるのであれば、今年度と同じ形で、見学→語り部活動の流れでカリキュラムを編成していく。

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

その他（PRポイントなど）	
---------------	--